

(令和2年3月9日現在)

阿賀野市長選挙（4月19日投票）に向けた政策（素案）

もう一度、私にチャンスを与えてください！やり残した大事な仕事があります！

1期4年の市長在任中、心血を注いで取り組んだ市立病院の公設民営化。新病院（あがの市民病院）はできたものの、市民が一番に望んでいる救急医療は不十分なまま。加えて病院の再編・統合による診療体制・機能縮小への不安。今、まさに地域医療に対する不安・不満・不信が増大し拡散。

新型コロナウイルスの感染拡大（パンデミック）。首都圏と2本の動脈（新幹線・高速道路）で繋がる新潟県。県都新潟市に隣接する阿賀野市。市の感染症対策（危機管理体制）は万全なのか？不安が募るばかり…

雌伏8年。一市民としてこの町に暮らし、この町の行く末を案ずる。果たしてこのままで良いのか！

もう一度、私にチャンスを与えてほしい！

市民病院の救急告示復活…、やり残した大事な仕事が残っている！

やるなら今だ！私ならできる！私しかできない！

阿賀野市再生請負人

天野 市栄

争点

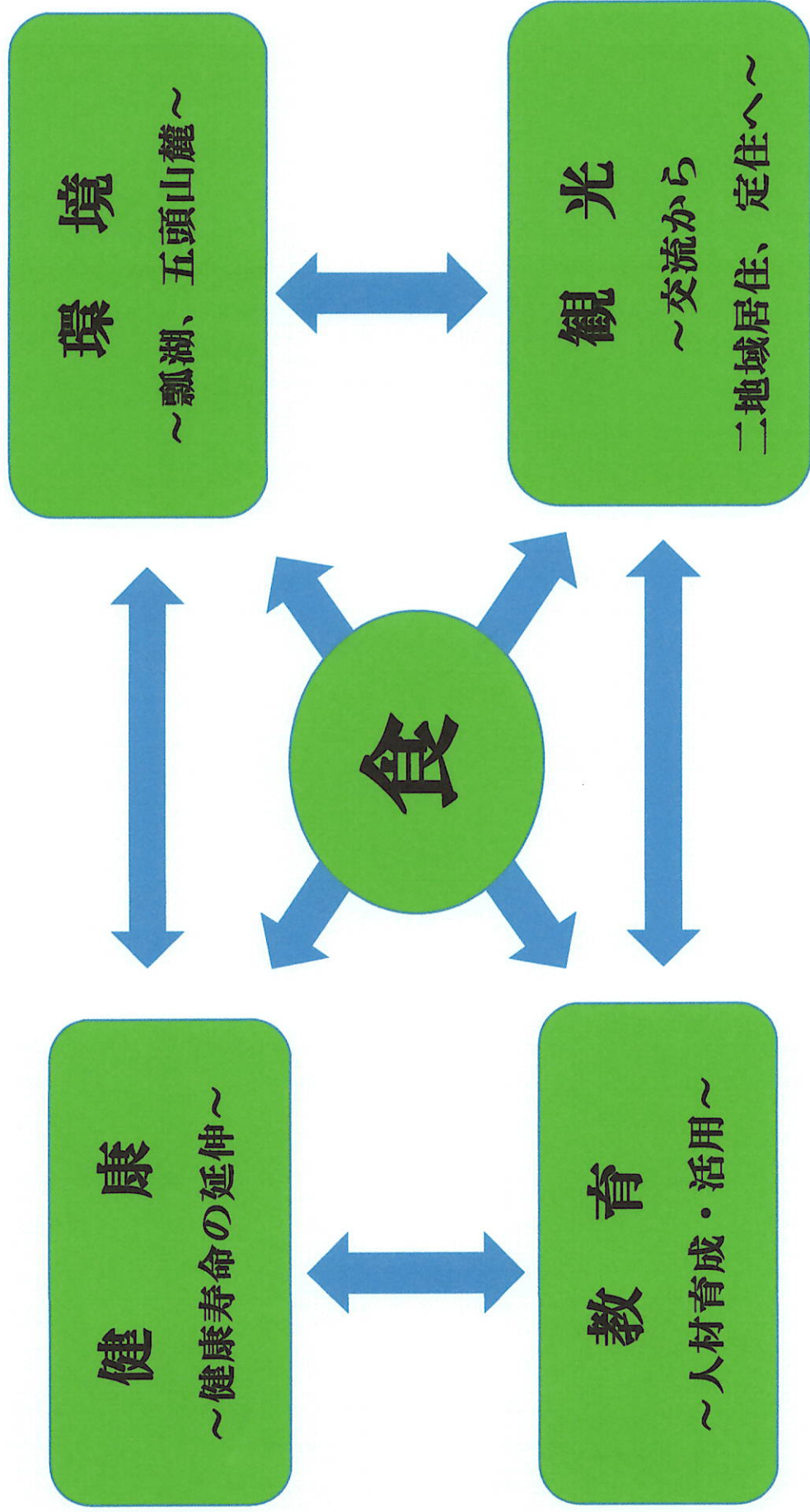
(現市政との対立軸)

- 建設（ハード）中心のまちづくりか、
運営・協働（ソフト・ハート）中心のまちづくりか
- 市役所・業者（行政サービスの売り手）目線か、
市民・利用者（行政サービスの買い手）目線か
- 短期志向のまちづくりか、
長期展望に立ったまちづくりか
- 人材軽視・使い捨ての市役所組織か、
人材重視・活用の市役所組織か

阿賀野市再生のキーワードは

四つ葉のクローバー

4 K (健康×環境×教育×観光) + 1 S (食)



※巻末にイメージ図あり。

コンパクト&スマートシティー構想

～少子高齢化・人口減少社会に合わせたまちづくり（コンパクトシティー）、自然エネルギーを活用したまちづくり（スマートシティー）を提案します！～

コンパクトシティー～少子高齢化・人口減少社会に合わせたまちづくり

○均衡のとれたまちづくり～対立を超えて調和へ

- ・市街地・中心部（水原地区・安田地区）に公共（公的）施設、商業施設（店舗、スーパー）など、日常生活に不可欠な都市的機能を集約
- ・郊外・周辺部（笹神地区・京ヶ瀬地区）は生産拠点（農業・工業）や交流拠点（観光業）として整備
- ・交流人口の拡大を視野に入れたJR水原駅を経由する市内バス、駅を発着するシャトルバス（五頭温泉郷行き）の運行

○高齢者に優しいまち～徒歩（自転車）圏内に商店・病院（診療所）を配置

- ・市街地に高齢者向けの公設・民設の賃貸住宅を整備
- ・店舗のない地域（郊外）に住む高齢者向けに移動店舗（車両）を運行（支援）
- ・あがの市民病院の救急告示指定の早期復活、医師確保のための医学生奨学資金貸付制度を復活
- ・自宅や住み慣れた地域に暮らす軽度の要介護・要支援の高齢者向けに在宅介護サービス・デイサービス・ショートステイサービスを提供する事業者を確保（支援）

○社会的弱者（障がい者、一人親世帯、貧困世帯など）が普通に暮らしていただけるまち

- ・社会的弱者向けに公設の賃貸住宅を整備
- ・民間住宅で生活する世帯に対する家賃補助
- ・障がい者の就業支援（市役所職員など）
- ・公共空間（歩道、公共・公的施設）のバリアフリー化（支援）

○子育て世帯に頼りなるまちづくり～子育て世帯に対する支援策を強化

～自身が子育て世帯だからこそ見える・分かる、子育ての悩みや不安・課題

- ・空き家を生きて世帯向け住宅（賃貸・分譲）に転換
- ・子育て世帯に対する家賃補助
- ・低所得世帯の子弟に対する就学資金援助

○地域経済・産業の活性化～商店街はまらの顔！

- ・阿賀野バイパス（水原区間）の全線開通に伴う商店街の活性化・賑わい空間の創出、電線の地中化
- ・農工商業者の事業承継（後継者・第三者移譲）に向けた支援
- ・事業承継者養成塾（仮称：温故ビジネス塾）を設置
- ・県営東部産業団地への企業誘致（雇用吸収力のある製造業など）
- ・地域資源（人材、素材、技術）を活用した若者の起業化を支援
- ・農業（1次産業）の6次産業化 《生産(1次)×加工(2次)×販売(3次)》
- ・建設業（2次産業）の6次産業化 《建設(2次)×運営(3次)》

○選択と集中による公共施設の整備・適正配置

～「無いから造る」「造ったら終わる」のではなく、「必要だから造る」「造ってから始まる」へ、

「造っても人がさっぱり集まらないう施設」ではなく、「造ったら大勢の人が集まる施設」へ

- ・負債ではなく資産として将来世代（子供たち）に引き継げる公共施設を整備
- ・合併前の旧4か町村時代に建てられた類似公共施設を他用途に転換
- ・閉校した市内5小学校（赤坂・山手・大和・寺社・前山）の校舎を内外の交流拠点として整備
～芸術・文化活動、体験活動を通じた地域住民と都市住民との交流
- ・「うららの森トマトハウス」の早期民営化（指定管理など）、「道の駅」の公設民営化の推進

スマートシティー～自然エネルギーを活用したまちづくり

○エネルギー効率の高いまち（スマートシティー）づくり

- ・省エネ・創エネ・蓄エネ設備を備えた住宅建設（ゼロ・エミッションハウス）を支援
- ・「阿賀野市バイオスタウン構想～資源循環型社会の構築～」の早期事業化

人口減対策～キーワードは、仕事（活躍の場）・住まい・子育て

- 定住人口の維持…住んで良かった！
～子育て世帯を逃がさない、子育て世帯を呼び込む⇒仕事と住まいを提供（支援）
- 交流から二地域居住・定住へ（I/Jターン）…来て良かった！⇒また来たい！⇒住んでみたい！
～活躍の場・仕事と住まいを提供（支援）
- 就職や進学のためふるさとを離れた若者…ふるさと（実家）に帰りたい！（Uターン）
～仕事（起業化）を提供（支援）

市役所組織の強化・活性化～危機管理に強い組織体制の確立

- 平時と非常時（緊急時）の意思決定の明確化…平時はボトムアップ、非常時はトップダウン
- 市民に分かり易い組織編制…部制を廃止し副市長を選任
- 真の「ワンストップサービス」の提供…1階に市民相談室を設置
- 職場風土（環境）の改善（風通しの良い職場づくり）
- モラル（規範意識）とモラール（士気・意欲）を兼ね備えた職員像の確立
- 役付き職員（課長補佐以上）への女性登用率の引き上げ

「市長として、これから私がやらなければならないことがあります。本来、公益に奉仕すべき公務員が、その職責を忘れ、私益に奉仕せざるを得ない状況を正すことです。この地域には旧態依然とした悪弊が風土病のように根付いています。この悪弊を断ち切らなければ、田沼市（阿賀野市）の未来は切り開けないと考えられています。いつの時代も、未来を開拓するのは子供たちです。私は、田沼市（阿賀野市）を子供たちが夢や希望を抱けるような町にしたいと思っています」

橋 左京 作 小説「廃屋の町」より

厳冬の劔岳「野上、俺に代わって生きてくれ！」
市長選挙間に発覚した
市立病院建設工事の官製談合疑惑
りークした市職員を肅清「死人に口無しだよ」

不都合な真実！
闇に隠れた
元市長が明かす
後ろ側にある！
内側、裏側、
真実は、

※小説「廃屋の町」は、「地域政党 日本新生」のホームページ
(<http://www.nipponshinsei.jp/>)に掲載されたブログ<2017.4.27～2018.1.14>を
もとに書籍化されました。

地域政党 日本新生

検索



コンパクト&スマートシティ構想

(20××年 近未来の阿賀野市)

郊外「農・食(職)・住」



市街地「コンパクトシティ」



郊外「生産・遊び」

